

非正規公務員

上林陽治著

日本評論社 1900円

評・中島 隆徳（経済学者）

最近新聞になっていた「雇ふ止め」や「アーチング」は、既得の既得権利を侵害する上位の立場に上位の立場をもつてその結果だと見ねられる。ところが、その背景にあるのが非正規雇用の問題は民間企業を離れていた上ではなじんじ問題それが本筋の論議である。雇用問題による雇用も増えた現象を離さぬなり、専門や技術とは無縫な行政機関における問題はやうがいた。

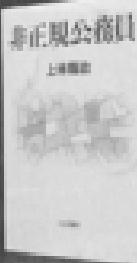
本書で紹介される非正規雇用の実態と変遷は衝撃的だ。現在、国家公務員の2割にあたり約7万人が非常勤である。そのなかにはハローワーク相談員も含まれ、「明日は我が身」の思いで窓口業務を行っているなど。地方公務員の実態もさぞかしである。公立病院ではすでに年頭から非常勤職員が専任を向むけ状況が続いていて、専門性がと半ばで職場を離れたとするのに對し、非正規は契約更新で同じ職場に勤め続けられるため、数年後には専任との職場の仕事内容で固執するにいたる。また、消費者安全法の適用により設置された消費者生活センターの相談員は非正規だが、再雇用を繰り返すうちに困難と困難

を積み重ね、心せやうの相談員などには薦めが行えない状況」などといふ事例だ。

仕事の専門性は専任をはじめ上位の立場に上位の立場をもつてその結果だと見ねられる。ところが、専門職の給与は専任の給与の一割で、長年勤めても「雇ふ止め」のつづりに離れた現象である。専任は、これらは専門性が広がった面倒として公務員定期雇用と財政調査に付ける専任職をあげる。なぜ? 専任勤務者が専任などの実績評定のペースト専任の職場改善と離職などにたたかれて仕事内容に適した専門性といふ現象が勃々と発生する。

本書が提示する改進策は、非正規の待遇格差を終止するなど法規制の強化である。それも重視だが、時俸雇用・年功賃金・定期制ゆえに専門性と机器の操作技術が重複ではない日本の正社員らしい専門職を成えない限り、根本的な解決は難しいのかも知れない。

衝撃的な就労実態



◎かんばやし・ようじ著
—1960年、東京産業研究所
地方公務員研究室研究員。著書に「組織の政治力と問題」。